



季刊学海

2020.8 夏号

岐阜県立岐阜高等学校・校誌編集委員会

目次

入学式(4/10)	1	終業行事(8/7)	3
令和2年度転入者	2	グローバルリーダー養成事業	4
対面式(6/15)	2		

◆■4月10日(金)

■入学式

360名の入学を許可

式辞

校長 折戸 敏仁

柔らかな春の日差しの中、令和2年度岐阜県立岐阜高等学校入学式を挙げるにあたり、多くの保護者の皆様のご出席を賜りましたことに心から感謝申し上げますとともに、厚くお礼を申し上げます。

ただ今、入学を許可しました360名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。在校生、教職員一同、皆さんの入学を心からお待ちしておりました。

保護者の皆様には、お子様やご家族のご努力と願いが叶って、お子様が本校に入学されましたことを、心からお喜び申し上げます。

本校は、明治6年の創立以来、今年で147年の歴史を刻む、全国的にも屈指の歴史と伝統を誇る学校です。

また、校訓に、「百折不撓、自彊不息」を掲げ、生徒一人一人の個性や能力を、最大限に伸ばすよう様々な教育活動に取り組んでまいりました。これまで、46,000人を超える卒業生が、国の内外を問わず、各界において輝かしい成果を上げ、活躍しておられます。

新入生の皆さんは、今日から、本校の一員となります。入学した今の喜びと希望、そして緊張感を忘れず、岐阜高校の生徒であるという自覚と誇りを持って、充実した高校生活を送っていただきたいと思います。

さて、現在、新型コロナウイルスの感染拡大により世界は大きく揺れ動いています。また、我々はこの収束が見通せない中で、不安を抱えながら生活をしています。一方、医療機関、行政機関など様々なところで、昼夜を問わず感染拡大防止へ向けた対応に取り組んでおられる方がいることも忘れてはなりません。

校訓にある「百折不撓」は、どのような困難に出会っても決して怯むことなく、限りなく挑戦し続けることを意味しており、「自彊不息」は、常に怠けず、自ら努め励むことを意味しています。このように校訓には、この岐阜高校において強い精神力をもって、常に夢の実現に挑戦できる人間になってほしい、という思いが込められています。また、今こそ皆さんには「百折不撓」「自彊不息」の校訓の意味するところを体現してほしいと思ってい

ます。

新入生の皆さんにはそれぞれ、将来このようになりたい、このようなことをしたいという夢や希望があると思います。その参考として、皆さんの高校生活に期待することを2つお話しします。

1つ目です。与えられることだけでなく、自ら求めて学んでください。授業が再開されるまで、皆さんは各自、家庭で学習することとなります。今こそ、自らのペースで学び深めていく良いチャンスです。ここでの疑問は授業が再開されたときに解決につながり、より一層深い理解へとつながります。

2つ目です。この三年間で大いに本を読み、読書を通して幅広い知識や豊富な語彙を身につけ、思考を深めてください。社会が大きな不安を感じている今の状況だからこそ、皆さんには読書を通して視野を広く持ち、気付いたこと、得られたことをプラスの方向でとらえてみてほしいと思います。今まで自分の中にはなかったものの見方、考え方に気付き、やがて、それは豊かな教養となり、思考の幅を広げ、様々な決断に当たり、多くの選択肢を与えてくれるようになります。

皆さんは自分自身の高校生活を、今日から、自分で作り上げていくのです。自分自身の将来像を描きつつ、それぞれの三年間を充実させて過ごしてくれることを期待しています。

結びとなりますが、ご出席いただきましたご来賓、保護者の皆様に、重ねて厚くお礼を申し上げます。本校ではお子様の夢実現に向けて、全教職員が全力で教育活動に当たってまいります。どうか、今後とも本校の教育活動にご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます、式辞といたします。

新入生代表宣誓

新入生総代

私たち新入生 360 名は今日ここに岐阜県立岐阜高等学校への入学を許可されました。今日より三年間、140 年余りの伝統を持つ岐阜

高校の生徒であることを誇りとし、文武両道のトータル・パーソンを目指します。また、高い志をもち、校訓である百折不撓、自彊不息を心に刻み、心豊かな人格の一層の向上を目指すとともに、伝統に培われた校風を維持発展させるよう心掛けることを誓います。

令和2年度転入者

() 内は旧所属

教頭	数 学	下野宗紀 (教育総務課)
教諭	国 語	若山智也 (飛騨神岡高校)
	国 語	下畑湧太郎 (新規採用)
	地歴公民	田口宗右都 (岐南工業高校)
	地歴公民	加藤健司 (東濃フロンティア高校)
	数 学	石樽啓乃 (恵那高校)
	数 学	長屋香芳 (武義高校)
	理 科	棚橋誉久 (鹿児島中央高校)
	保健体育	堀 翔太 (新規採用)
	音 楽	岩崎有子 (岐阜高校)
	英 語	岸本真里 (大垣北高校)
	養 護	樹下佳奈 (郡上北高校)
	実習教諭	村橋郁代 (岐阜農林高校)
常勤講師		
	国 語	生駒麻美子 (岐阜高校)
	地歴公民	奥田元彬 (新規採用)
	情 報	末岡良明 (岐阜高校)
非常勤講師		
	美 術	伊藤 茂 (岐阜高校)
	家 庭 科	川島由美 (岐阜高校)
	保健体育	野末拓夢 (新規採用)
事 務		辻 敏晴 (新規採用)

◆■6月15日(月)

■対面式

歓迎の言葉

生徒会長

全校の皆さん、こんにちは。そして一年次生の皆さんは、はじめまして。

一年次生の皆さん、ご入学おめでとうございます。岐阜高校は学び舎ではありますが、それだけではありません。先日、紹介映像が

あった部活動をはじめとして、その他にも色々な行事があります。このようなコロナの状況下ということで、例年よりも実施できる行事は少なくなるかもしれませんが、生徒会ではできる限り努力しようと思います。皆さんも今後の学校生活を楽しんでください。

新入生代表挨拶

新入生代表

今日は大変な時期にも関わらず、私たち新入生のためにこのような式を開いていただき、本当にありがとうございます。私をはじめ、多くの新入生がそれぞれに不安を抱えつつも、今ようやく、待ちに待った高校生活を本格的に始めようとしているところです。少しでも早く新しい生活に馴染んでいこうと頑張っているつもりですが、先生方・先輩方にお世話になることも少なくないと思います。そんな時には、どうか快く力を貸してください。先生方・先輩方、どうぞよろしく申し上げます。

◆■8月12日（水）

■終業行事

新しい朝

校長 折戸 敏仁

梅雨明けからほぼ一週間、暑さも大変厳しくなってきました。

新しい朝が来た

希望の朝だ

小学生のころ、夏休みになると、朝6時に母親に起こされ、眠い目をこすりながらラジオ体操の会場である近くの神社へ歩いていくと、ちょうどこの歌が流れている時間でした。「ラジオ体操の歌」の一節です。

最近、TVCMでこの歌詞を聞き、どこかで聞いたな、そうだラジオ体操の歌だ、と気付くとともに、改めて、この歌詞の持つすばらしさを感じました。

新しい朝が来た

希望の朝だ

喜びに胸を開け

大空あおげ

日の光を浴びると、私たちの脳内では「セロトニン」という神経伝達物質が分泌され、幸せな気分になるといわれています。このセロトニンは、精神の安定をもたらす脳内物質だそうです。特にストレスに対して効能があるともいわれています。もちろん、日の光を浴びるだけでなく、適度な運動、バランスの良い食事も必要です。

私は専門家ではないのでこの説明では不足があるかもしれません。このことについて興味を持った人は一度調べてみてください。

さて、6月中旬から授業が再開され、これでひと月半ほど経ち、短いながら、夏季休業に入ります。

ここまでの約4か月間は、皆さんがそれぞれ思い描いていた高校生活とは異なっていたかもしれません。こうした状況の中でも皆さんがそれぞれの夢や希望の実現へ向けて、精一杯取り組んでくれていることを頼もしく思っています。

現在、新型コロナウイルスの感染症拡大の収束が見通せない中で、私たちは不安を抱えながら生活をしています。一方、医療機関、行政機関など様々なところで、昼夜を問わず感染症拡大防止へ向けた対応に取り組んでおられる方があることも忘れてはなりません。こうした状況を見るにつけ、皆さんの中でも、自分は将来こうしたことを研究し社会の役に立ちたい、あるいは新たにこうした職業を立ち上げたい、など考えた人もあるのではないのでしょうか。まさに「国家のために明け暮れ学ぶ」ですね。また、こうした時だからこそ、政治や経済、医療、科学技術、心理学など、今、そして今後、どのような分野でどのようなことが必要となり、自分ならどんなことができるか、どんなことがしたいのかも考えてみてほしいと思っています。

毎日、新しい朝が来ます。希望の朝が来ます。喜びの気持ちで胸を大きく開き、大空を

仰ぎ見てください。

皆さんには、これからの夏季休業中、またそれ以降も毎朝、日の光を浴び、幸せな気分で一日を始め、自分の進路目標達成へ向けて一步一步進んでいってくれることを期待しています。

また、8月24日に皆さんが元気な姿で始業を迎えてくれることを期待しています。

グローバルリーダー養成事業

～令和元年度～

◆■12月11日(水)

■最先端科学体験プログラム(工学経済系)

〔講師〕

真田 和明 氏

(森松工業株式会社取締役)

講演「海外でどう生き残るか? <森松工業の事例>」

〔日程〕15:40~17:40

〔参加者〕全校希望者 18名

講師の真田和明氏は本校の卒業生で、大学卒業の後、金融機関の海外駐在を経て、森松工業株式会社へ転職されました。森松工業株式会社は、岐阜市発祥のステンレス水タンクメーカーとして国内シェアナンバーワンの会社です。真田氏は取締役として主に中国事業を支えておられ、中国でのプラント製造についても説明いただきました。

□講演の概要

1 森松工業株式会社について

森松工業株式会社は1947年に岐阜市でスタートし、ステンレス製タンクメーカーとして成長してきた。溶接技術を強みにして、1990年以降は中国を中心とした海外展開を進めてきた。全体の社員数4,000人のうち、国内が730人で、海外の社員数の方が5倍近い。国内と海外では異なる産業展開をして、海外では水道関連施設、ロケットの胴体など、細かい加工が必要な製品を得意としてきた。

2 グローバルリーダーとして必要なこと

- ① 異国/異文化の人とコミュニケーションできる
- ② 多様性を尊重できる
- ③ 広い視野で見渡せる
- ④ 自己アイデンティティを確立している
- ⑤ 高い教養を身に付ける(リベラルアーツ)
- ⑥ 問題解決能力
- ⑦ 自他の利益を理解する
- ⑧ 決断できる

「リスクをとらないことが最大のリスクである。」挑戦してきたことに森松工業が発展してきた理由がある。

今の勉強には必ず意味がある。自分が一生懸命やってきたことは、意外なところで生かされる。

□電気溶接の体験

3人の技術者の方に準備していただき、ステンレス板の溶接を見学、体験させていただいた。アルゴンガスをシールドガスに用いて、熔融金属の酸化を防ぐようにしていることが分かった。

実際に使用されるものと体験者が溶接したものを比べて、技の熟練度の違いを実感した。高い溶接技術が、水タンクのみならず大規模なプラント建設にも生かされており、森松工業が海外に進出する礎となっている。

□生徒の感想より

- ・真田さんが海外でどのような生活をしてきたかというお話に強く惹かれた。僕は将来、海外に住みたいと思っていたが、「働く」ことまではいいかなという感じだった。お話を聞いて、いろいろな国に友人がたくさんいるというのはとても格好良いし魅力的だと思った。
- ・“今”が大切なんだ。“今”しっかり勉強すれば大人になってからいろんな面で役立つ。例えば自分の好きなところで好きなことができるようになったり、海外に行つてうまくコミュニケーションをとりながら仕事が

できたり。改めて学習姿勢を正すきっかけとなった。また、今やるべきは勉強だけでなく、人間関係は一生ものになるということ学んだ。

- ・グローバルな面から中国が今後発展すると予想して事業を展開した考えはとても進んでいてすごく合理的だと思いました。グローバル化に対応できる人材になるためにはアイデンティティーを確立することが大事であるということに強く共感すると同時に、自分は何ができるかを見極め、自分の得意なことを伸ばしていきたいと思いました。
- ・今後自立した人間として生きていくために必要なことは何であるかを考える機会となりました。心に残ったことは、自分の得意な分野を磨いて、自分のアイデンティティーを確立するという点です。
- ・水タンクの形がずっと謎だったけれど、球状に膨らませてある意味が分かった。
- ・実際に溶接を行ってみて、とても神経を使う仕事でたいへんだと思いました。滅多にできないことを体験させていただいてとても良かったです。
- ・溶接を見て、この職人技を伝えていくことはとても良いことだと思った。人と人のつながりを大切にしている会社だからこそ、あれだけの実績を上げられるのだと思った。

◆ ■ 12月11日(水) 13日(金)

■ 国際交流体験プログラム(国際・社会系)

〔講師〕

土井 敏邦 氏(ジャーナリスト)
講演「日本の中の外国人と、どう向き合うか」

〔日程〕

12月11日 15:30~17:10 映画上映会
12月13日 15:30~17:30 講演会

〔参加者〕

上映会: 全校希望者 38名
講演会: 全校希望者 16名

□はじめに

少子高齢社会の日本にとって労働力不足は深刻な問題である。そこで日本政府は、労働力不足を補うために外国人労働者を積極的に受け入れる政策を推し進め、多くの外国人が労働者として日本国内で働くようになった。彼らは単に労働者としてだけでなく、日々の暮らしを生きる「生活者」として存在している。滞在が長期にわたる者の中には日本で結婚して(あるいは家族を呼び寄せて)家庭を築き、子どもを生み育てる者も出てきている。

しかし、社会の変化はあまりにも急激で、私たちは増え続ける外国人に対して十分な対応ができていないと言いがたい。この先彼らと共生していくために、私たちには何が必要なのだろうか。

今回の土井氏の講演会では、土井氏の製作した映画の鑑賞と講演によって、こうした問題について深く考えることができた。

□映画の上映会

『異国に生きる 日本の中のビルマ人』
(作品紹介)

ビルマ人青年チョウチョウソーは、新妻を残し、祖国の民主化のために政治難民として日本に逃れた。数年後、やっと呼び寄せた妻と“異国”日本での“生きる”ための闘いがまた始まる。タイで14年ぶりにやっと再会できた老父。しかし5年後のその父の死も祖国で看取ることはできなかった。「誰のために、何のために、遠い“異国”で生きるのか、自分にとって何が最も大切なのか」——異国・日本で自問し続けるビルマ人青年の14年間の記録。

□生徒の感想より

・今現在でも在日外国人の方々は多くの問題を抱えています。私はまだ何も大きな事はできませんが、彼らの境遇を理解し、生き方を尊重し、そして助けられるところでは助けるだけでも力になれるのではないかと思います。困っている人を助けるのは、そ

れが何人だろうと関係ない。自分たちでできることをするのは当たり前だという考え方に大変感銘を受けました。

□講演会

映画の内容を受けてご講演をいただいた。

「技能実習生」というのは名ばかりで、実態は外国人労働者を劣悪な環境に置いて徹底的に搾取する。そのようなことがこの岐阜の地においても行われてきた。私たちはそれをニュースで知っているはずなのに、実感を持って受け止めてこなかった。外国人とどう向き合うかという問題は、私たち日本人はどう生きるかという問題でもある。そのことを、生徒一人一人に向けて鋭く迫るご講演であった。

□生徒の感想より

・私は高校に入ってから、自分から挑戦し何か新しいことを体験することをしてこなかった。自分の知らない場所で何かすることが怖かったからだ。そんな私だから自分が何に興味を持っており、何に向いているのか分からずにいる。失敗してもいいから挑戦し何かを体験すること、これが自分の人生を創る上で本当に大切なことであると学んだ。これからは挑戦できる自分になりたい。

◆■12月19日(木)

■最先端科学体験プログラム(技術社会系)

〔講師〕

海農 理絵 氏 他

(トヨタ自動車株式会社

第4電動パワートレシシステム開発部)

〔実習〕自動運転プログラミング

〔日程〕13:30~17:30

〔参加者〕一・二年次生希望者 36名

トヨタ女性技術者育成基金の援助を受け、理系学部進学希望者を対象に実施しました。

□講演の概要

ガソリンエンジンの開発を行う女性技術者

として、海農理絵氏よりご講演いただきました。高校時代の経験談から始まり、文理選択や受験大学の決定に至るまでなど、とても親近感が湧きました。また、大学での研究室や就職先の決定、仕事内容や海外での研修の様子など、ご自身の体験をもとに、生徒の目線でお話しをいただきました。

仕事のやりがいとしては、自分が意図した通りに車が動くことややりがいを感じるのは当然だが、自分の身の回りで走っている車を見ると、自分の仕事が認められている証拠になるので、日常生活の中でもやりがいが感じられるとのことでした。

技術者というと男性のイメージが強い職業かもしれませんが、トヨタ自動車では女性技術者も多いそうです。海農氏自身も出産を経験し、産休復帰後は、子育てがあるから仕事を減らすのではなく、育児がしやすい環境で仕事も充実してできる環境にあり、周囲から理解がある中で仕事ができているということでした。

最後に海農氏は、大切なこととして、

①なぜそうなるのか、本質は何か、きちんと考えること

②考え方の違う人とコミュニケーションをとるための人間力

③やりたいことにどんどんチャレンジ

④好きなことを大事に続けていくこと

を挙げられました。

□実習

実習では、トヨタ技術会の方々が自作された自動運転ミニカーを使用して、障害物のあるコースを正確に走るコンテストを行いました。ミニカーには、ラズベリーパイと呼ばれる電子基板が搭載されており、事前にプログラミングを行うことで用意されたコース上を自動で運転することができます。生徒たちは、プログラミングを変更しながらコースをうまく走らせようと試行錯誤を繰り返しましたが、プログラミング中の数値をほんの少し変えた

だけで、ミニカーの走る様子が全く変わってしまうことに驚いていました。完走するのも難しいような状態からスタートしましたが、自分たちが思い描くコースでミニカーが走ると歓声があがるなど、非常に盛り上がるコンテストとなりました。今回の自動運転プログラミング実習を通して、プログラミングの難しさと面白さの両面を体験することができ、非常に有意義な体験ができました。

□生徒の感想より

- ・親や親戚といった身近な人ではない、実際に現場で働いている方の言葉が聞ける機会はあまりなく、とても面白かった。
- ・女性エンジニアの方の話を聞いて、育児や妊娠をしながらでも活躍できるのだと分かりました。
- ・1つの部品を作るのにも、使う人の感覚と実際の動きが合うように何回も試してみる必要があります、想像以上に地道な作業が続く大変な面があることが分かりました。
- ・技術体験では、1つでも値が違っていたり、ミニカーを離すところが違ったりすると、走行経路は大幅に変化するところから、いかに機械というものが精密なもので、扱ったり操作したりするのがどんなに難しいか実感できました。
- ・実習ではPDCA(計画・実行・反省・再行)を意識して、どこがダメだったか深く考えられたので、他のことにもつなげられるようにしたいです。
- ・もっとやりたいことをやろうと思った。今は、面倒くさいとか理由をつけて全然チャレンジできていない。もっと気楽に行動できるように意識したい。やってみようと思ったら、すぐやってみるのが大切だと思う。

◆■12月21日(土)～22日(日)

■各種大会体験プログラム

PDA 即興型ディベート

〔参加者〕 二年次生 3名

□大会概要

12月21日～22日の2日間、東京大学本郷キャンパスにおいて、「PDA 即興型ディベート全国大会」が開催されました。本校からは二年次生の生徒3名が参加しました。

大会は、今年で5回を数えます。今年度の参加校は64校。本校は昨年につき、2回目の参加です。6月15日(土)に本校で実施したPDA 東海公立高校即興型英語ディベート交流大会の結果、全国大会への参加が決まりました。回を重ねる毎に参加校数も増え、ディベート部を持つ私学の中高一貫校の参加も多くなり、よりハイレベルな大会になることが予想されました。

初日に予選を4試合行い、上位8チームが決勝トーナメントへ進みます。論題は、「部活動は週休3日とする」といった予備知識をあまり必要としないものから、「共通テストの英語民間試験導入の見送りの是非」といった参加生徒が当事者として直面している問題や、「日本の米軍の駐留費負担」といった社会問題へなど多岐にわたり、徐々に難度が上がっていきました。

即興型英語ディベートの最大の特徴は、論題が示されてから20分という限られた時間内で、与えられた立場からの立論をしなければならない点にあります。英語での話す・聞く力はもちろんのこと、論理的思考力や、幅広い知識や考え方、そしてプレゼンテーション能力などの複数の力が必要になります。これまでの校内の練習を通して、時事問題について学ぶことの大切さを知り、物事を多角的に分析する練習を行ってきました。当日の試合では、論題の分析、論理展開、鍵となるフレーズなどを短時間で話し合い、高いチーム力を発揮し、予選4試合を戦って3勝。予選の最終試合の結果は翌日に発表となりました。結果は、あと一步及ばず9位。決勝トーナメントには参加できませんでしたが、昨年度から大きく順位を上げ、確実に力を伸ばした実

感を得ることのできた貴重な体験となりました。他校生との交流も活発に行い、良い刺激を得ることができました。

□大会結果

総合順位：9位

ベストディベーター賞

□生徒の感想より

- ・複数の視点から論題を解釈し、「論」として説得力のある意見を短時間でまとめるのはなかなか難しかったが、良い経験となった。特にチームとして一貫した方針を明確にし、自分たちの意見にどんな反論が来ても逆にそれを使って自分たちのチームに有利になるような応答に生かしていく対応力は、社会においても大事なことでありと再認識した。ディベートの上手な他校のチームの試合を見ることは、とても良い刺激となった。
- ・総合順位3位以内を目指していたので、決勝に進めず残念でしたが、昨年と比べチームとしての成長や個人の成長を感じられる大会でした。岐阜高校のディベート活動はまだはじまったばかりなのですが、ここまで成長できたことを誇りに思います。しかし、今大会に参加したメンバーは皆、優勝を目指していたので、やはり悔しい気持ちでいっぱいです。後輩たちには、一生懸命練習をして、いつか優勝してディベート全国1位になってほしいと思います。
- ・昨年度末に出場した別のディベート大会と同じメンバーということで、今回は「目指せ全国1位！」という意気込みで大会に参加しました。試合を通して自分たちの立論力が大きく上がったことを実感でき、とても有意義な時間になりました。決勝トーナメントに出場できず、とても悔しい思いをしましたが、決して忘れられない思い出深い大会となりました。今後の後輩の健闘を祈っています。

◆■12月22日（日）

■各種大会体験プログラム

第5回西大和模擬国連大会 海外研究部

〔参加者〕一・二年次生16名

本校が模擬国連活動に取り組むようになってから、毎回欠かさず参加している練習大会である。西大和学園高校は西日本を代表する模擬国連の強豪校で、全日本大会で何度も入賞を果たしている。例年この大会に参加することによって、初心者は模擬国連の面白さや奥深さを実感してきた。

今回は一・二年次生あわせて16名が参加した。会場は奈良県北葛城郡にある白鳳短期大学であった。参加校は本校を含めて10校、参加者は120名を越えた。

議題は、「安全保障理事会の議会席拡大と衡平配分および関連事項」であったが、これは第4回全日本高校模擬国連大会（2010）と同じである。現実世界において、国連安保理の常任理事国入りは日本政府の悲願なのだが、その道のりは険しい。国によって思惑が異なるため、実際の国連同様、模擬国連においても会議が紛糾することは予想された。果たして決議文書の採択まで持っていけるのか、興味が尽きなかった。人数が多いために、2つの議場に分けて行われた。早朝に出発し、長時間の移動を経て会場入りした本校生徒は、疲れも見せず交渉を続けた。

結果は、残念ながら入賞はならなかったが、持てる力を出し切ったという満足感と心地良い疲労感に包まれながら帰路に着いた。

◆■1月17日（金）

■国際交流体験プログラム（生物・国際系）

〔講師〕

新井 卓治 氏

（公益社団法人日本マレーシア協会専務理事）

講演「生物多様性の保全と私たちの生活について」

〔日程〕 15 : 30 ~ 17 : 30

〔参加者〕 一・二年次生希望者 27 名

(含 マレーシアボルネオ研修事前学習)

□講師 新井氏について

1992 年(社)日本マレーシア協会入局、1997 年より専務理事。植林活動、留学生支援、文化交流など協会事業において中心的役割を果たしている。マレー語を駆使し、マラヤ大学大学院マレー研究アカデミー博士課程に進まれたほどのマレーシア通である。著書に『マレーシアを旅する会話』(三修社)、『今すぐ話せるマレーシア語』(ナガセ)などがある。

□講演の概要

1 ボルネオについて

マレーシアの領土は半島部とボルネオ島にあり、研修地のサラワク州、サバ州はボルネオ島に位置する。ボルネオ島は赤道直下よりは少し北、台風圏内よりは少し南の、東南アジア島嶼部の中央に位置する世界で 3 番目¹に大きな島である。ボルネオ島には、ブルネイ、マレーシア、インドネシアの 3 つの国の領土があり、インドネシア領土はカリマンタンと呼ばれる。ボルネオ島は熱帯雨林気候で、モンスーン(季節風)の影響で年間を通して切れ目のない降雨があり、年間の平均降雨日数は 200~250 日である。年間平均気温は摂氏 26~28 度で、かつ、月間平均気温の最高値と最低値の差異は 2 度以内であり、年間を通して高い気温も特徴の 1 つである(日中の気温

が摂氏 32 度を越える日は稀である)。高温多湿な気候のため、多種多様な動植物が生息している。ボルネオ島は日本から最も近い熱帯雨林地域である。ボルネオ島の熱帯雨林には、地球環境と人類の共存という視点から重要な機能がいくつかある。

- ①地球温暖化抑制の自然メカニズム
- ②生態系が最も豊かな森林(8,000 種以上の顕花植物、昆虫類を中心に 20,000 種以上の動物)
- ③熱帯雨林と水系・水質との関係
- ④経済資源としての熱帯雨林
- ⑤エコ・ツアーの対象としての熱帯雨林

2 日本人の生活の中でのボルネオ島の熱帯雨林産物について

東南アジアの熱帯雨林産物の中には、ボルネオ島でも産出されているものがたくさんある。私たちもボルネオ島でとれる様々な産物を利用している。

- ①木材関係：かつて日本はボルネオ島から多くの丸太材を輸入していたが、現在はほとんど輸入されなくなった。現在は、工業用のベニアや集成材、紙の材料となるチップ、家具、薪炭などが生産され、日本を含めた各国へ輸出されている。また、特殊木材として沈香²、ボルネオテツボク³もある。
- ②樹木からとれる樹脂や乳液：コパール⁴、ダマール⁵、ラバー⁶、ジュルトン⁷。

¹ 世界の大きな島ベスト 5 は、1.グリーンランド(デンマーク) 2.ニューギニア 3.ボルネオ 4.マダガスカル 5.バフィン(カナダ)。

² ジンチョウゲ科のジンコウ属の樹幹が傷を受けたときに凝固する特殊な樹脂を含んだ部分から芳香が得られ、伽羅木として薫香に利用される。

³ 鉄木の名のとおり、材が硬く、建築に用いられている。

⁴ ナンヨウスギ科ナギモドキ属の樹幹から採取される樹脂で、主にニス、エナメル、リノリウム、製紙などに加工・利用されている。

⁵ フタバガキ科の樹幹から採取される樹脂で、伝統的に灯火、ボートの水漏れ防止、接着剤などに使われてきたが、現在ではペンキやインキなどの工業原料として利用される。

⁶ パラゴムノキの樹幹から採取される乳液で、天然ゴムの原料。原産地は南米だが、現在では東南アジアで最も多く生産されている。

⁷ キョウチクトウ科のジュルトン(クワガタノキ)の樹幹から採取される乳液は、チューインガムの原料であるチクルとなる。

- ③タンニン原料・染料：ガンビール⁸。
- ④薬品：パサブミ・トンカット・アリ⁹。
- ⑤食品：ツバメの巣¹⁰、イリッペナツツ¹¹、タマリンド¹²。
- ⑥ラタン・竹：かご、ざる、バックなど日用品に加工する。
- ⑦鑑賞用草花：種類が豊富なランのほか、シダ類やウツボカズラなど。
- ⑧ヤシ類：ココヤシ¹³、サゴヤシ¹⁴、アブラヤシ¹⁵。
- ⑨動物性の産物：蜂蜜とハチの巣から得られる蜜蝋はワックスや蝋として利用する。

3 サラワク州における熱帯雨林再生活動について

特徴と方法：フタバガキ科在来種の植林を主とした低地熱帯雨林の植生回復。

どこで：かつて伐採が行われ劣化森林となった、主に二次林からなる保護林地域。

だれが：各種助成事業、企業の協賛、個人の寄付などからなる支援を得て、サラワク州森林局、マレーシア・サラワク大学、活動地域の村落開発委員会などと協働し、現地コーディネーターの調整のもと年間を通じて活動地域の村人が作業に参加する体制を構築している。日本からのボランティアも定期的に参加している。

いつから：1995年度から。

何をどのように：自然即応型の方式(ライン・プランティング)によるフタバガキ科在来

種の植林。森林局専門官が指導し、地域住民が参加して植林、保育、育苗作業を実施。マレーシア・サラワク大学による植生調査データに基づく造林学的指導など。ESD(持続可能な開発のための教育)プログラムによる村落や学校の参画。日本人ボランティアと地域の人々が参加する環境国際交流プログラムの実施。

これまでの成果：植林面積約 1,500ha の地域に約 50 万本の植林を実施(2018 年末時点)。参加人数：約 5,000 人の村人と、約 1,000 人の日本人ボランティアが植林に参加(1995 年～)。約 500 人の地域の小中高校生が植林作業体験に参加(2015 年～)。

環境整備：林道補修、苗床造成・整備(6カ所)、集会場造成(2カ所)。

国立公園化：アペン保護林が 2016 年に、サバール保護林が 2018 年に国立公園(永久保護区)へと昇格した。

4 公園の紹介

【セメンゴ自然保護区】約 800ha の森林区の中に、森で傷ついたり孤児となったりしたオランウータンを保護するために 1975 年に設立されたセメンゴ野生生物保護センターがある(クチン市内から車で約 40 分)。保護されたオランウータンを受け入れ、森で生活できるように訓練を行っているほか、調査研究も実施している。敷地内には、テナガザルやワニ、鳥類、トカゲ、リスなども生息している。

⁸ 皮のなめし、染料、薬用などに利用されている。

⁹ 健康食品として利用されている。東南アジアの熱帯雨林にある樹木からマラリヤの抗薬キニーネや医薬品のカンフルなどが抽出され、広く利用されている。

¹⁰ サバ州、サラワク州が最大の産地だと言われる。

¹¹ フタバガキ科樹木の一部の種子から抽出される脂肪分は、体温で融ける性質を利用してチョコレートや口紅、座薬などに使われている。

¹² 酸味をつける調味料。シナモンやバニラなども生産されている。

¹³ 主にジュース、ココナツミルクとして利用。ナタデココはココナツの脂肪層を発酵したもの。果実の繊維はロープ、タワシ、ブラシなどに加工、ヤシガラ炭は吸臭剤・脱臭剤として利用。

¹⁴ 幹の中の髓を砕いて抽出したでんぷんを利用。

¹⁵ 果肉からパーム油を抽出してマーガリン、石けん、シャンプー、食用油などに加工されている。現在、日本人が摂取する油の約 20% はパーム油であり、日本の輸入の 95% はマレーシアからのものである。

セメンゴ自然保護区の一 corner のランデ地区にはイギリス人が 1930 年代に植林した場所があり、80 年以上が経過した人工林の様子を観察することができる。

【アペン国立公園】総面積約 1,100ha で、クチンから約 100km、インドネシア国境付近に位置する。旧伐採地で、その後保護林地区に指定された二次林区である。日本マレーシア協会が 2005 年から植林活動を行い、これまでに約 30 万本の在来種を植林した。2016 年にマレーシア政府により、国立公園へと昇格した。

【グヌン・ガディン国立公園】ルンドゥ地区にある、天然山林地区（クチンから車で 2 時間）。直径 1 メートルにまで成長する世界最大の花、ラフレシアの保護地域として知られる。一般開放されて以来、訪問者がラフレシアの芽やその他の植物に害を与えずに自然を観察できるよう、政府によって管理されている。公園内にはジャングルトレイルがあり、小川や滝、山頂（906m）へとつながるトレイルもある。

【マタン野生生物保護センター】クチンから 35km（車で約 40 分）、クバ国立公園内にある。このセンターのエリアには絶滅が危惧されている野生動物が保護されており、オランウータンを野生に戻すためのプログラムが行われている。オランウータンの他にも、マレーグマ、ジャコウネコなどの哺乳類、ウミワシ、サイチョウなど、サラワクに生息する鳥類も見ることができる。センター内には研修施設や宿泊施設もあり、オランウータンの保護活動を体験するプログラムも行われている。

5 熱帯雨林再生活動

研修 2 日目と 3 日目に、日本マレーシア協会の協力を得て、マレーシア・サラワク大学

教員、学生との交流、熱帯雨林再生活動地で調査実習体験に参加した。

研修 2 日目は、セメンゴ自然保護区訪問の後、マレーシア・サラワク大学資源科学技術学部応用植物科学学科(Department of Plant Science)の教員、学生と交流をもった。

研修 3 日目は、熱帯雨林再生活動地（アペン国立公園）で以下の 5 つのグループに分かれ、大学教員、学生と一緒にテーマごとの調査実習を行った。

テーマ

- 1) 植物同定 : Plant identification - fundamental approach in answering ecological mysteries
- 2) 植物繁殖 : Techniques in plant production - propagation techniques for plant production
- 3) 害虫 : Insect pest - identifying "good" and "bad" pest
- 4) 土壌特性 : Soil - Soil is our hidden treasure; fundamentals in identifying soil properties for forest regeneration
- 5) 森林の化学的性質 : Chemistry - Forest resources: our source to various cellulose¹⁶ based materials for product development

6 かんたんマレー語会話とマレー社会のマナー

マレー語は、台湾、イースター島、ニュージーランド、マダガスカルを結ぶ世界最大の分布域を持つ、オーストロネシア語族西部オーストロネシア語派の言語であり、この語族に属する諸言語の中でもっとも広い分布域と使用人口を有している。

¹⁶ Cellulose セルロース（多糖類）は植物の主成分で、乾燥重量として植物の約 40% を占め、地球上で最も多量に生産・蓄積されている生物資源（バイオマス）である。セルロースは紙・パルプ・衣料用繊維など工業的にも広く利用され、人類との関わりも古く、様々な形で活用されている。

マレー語の特徴

- ・文字：ローマ字 26 文字
- ・発音：たいていの場合アルファベットのローマ字読み
- ・文法：時制・性別で語形変化なし、主語＋述語、後ろから修飾
- ・語彙：接辞法による造語法。

アルファベットをほぼそのままローマ字式に読めば良いので、日本人にとって非常に学習しやすい言葉である。マレーシア人は言葉の発音については非常に寛容で、ルビをそのまま読み上げるだけでも通じる。初心者でもすぐに通じる楽しさを実感できる。

基本フレーズ 挨拶

- ・Apa khabar? アパカバー (お元気ですか)
- ・Khabar baik. カバーバイ (元気です)
- ・Selamat pagi. スラマッパギ
(おはようございます)
- ・tengah hari トウンガハリ (正午)
- ・petang プタン (午後)
- ・malam マラム (夜)

自己紹介

- ・Nama saya ○○. ナマサヤ○○
(私の名前は○○です)
- ・Siapa nama awak? シアパナマアワツ
(あなたのお名前は?)
- ・Saya pelajar Sekolah Menengah Gifu.
サヤ プラジャー スコラ ムヌンガ ギフ
(私は岐阜高校生です)

お礼／別れ

- ・Terima kasih. トゥリマ カシ
(ありがとう)
- ・Sama-sama. サマ サマ
(どういたしまして)
- ・Jumpa lagi. ジュンパ ラギ
(また会いましょう)

役に立つ厳選単語

- ・sedap スダツ (おいしい)
- ・tandas タンダス (トイレ)
- ・cantik チャンテツ (きれい)

- ・bagus バグス (すごい)
- ・makan マカン (食べる)
- ・minum ミヌム (飲む)
- ・boleh ボレ (できる：英語の can)
- ・ini イニ (これ)
- ・Ini apa? イニ アパ (何?)
- ・minta ミンタ (お願いします、ください)

その他

- ・kawan カワン (友達)
- ・orang オラン (人)
- ・Jepun ジュブン (日本)
- ・Sila datang ke Gifu.
シラ ダタン ク ギフ
(岐阜へ来てください)

□生徒の感想より

- ・マレーシアに対して、さらに興味を持つことができた。日本とのつながりをあまり知らなかったが、予想以上に深くつながっていて驚いた。土壌や生態系の面で日本と大きく異なるので、違いを体感したいと思った。
- ・日本と全く異なる多様な植生分布や珍しい動植物をたくさん見られると聞いてワクワクした。また、現地で環境について専門的に調査研究を行っている学科があり、そこに所属している方と積極的にコミュニケーションをとって、詳しい話を伺いたいと思った。
- ・ボルネオは自然が豊かだと知って、その自然が人間の暮らしとどう関わってくるのかを自分なりに考えてみたいと思った。これまで現地の方がどのように生計を立て、自然を生かしてきたのかについて興味がわいた。
- ・私は去年、それまで考えることがなかった環境問題や、想像したことがなかった人々の暮らしなど、日本では感じるもののなかったものにたくさん触れることができました。今年のメンバーにも同じように感じてもらいたいです。

◆■1月24日(金)

■国際交流体験プログラム(社会国際系)

〔講師〕

須原 清貴 氏

(ドミノピザジャパン執行役)

講演「グローバル人材として生きるとは～日本人としてのアイデンティティを磨く～」

〔日程〕15:30～17:30 講演・英語討論

〔参加者〕一・二年次生希望者27名

(含 マレーシアボルネオ研修事前学習)

□概要

本校卒業生でもあり、ハーバード大学でMBAを取得し会社経営を行ってきた須原氏より、世界から賞賛される日本人の行動やリーダーシップなどを紹介していただきながら、日々培っている「当たり前のこと」が日本の強みとなることを再認識する機会となりました。日本がこれから世界をどうリードしていくかを考え、日本人としてのアイデンティティを磨くために、自分にできることについて生徒一人一人が掘り下げました。他にも、岐阜高校から現在に至るキャリア形成について、またその経験から考えるグローバル社会の中で活躍する人材に求められるものは何か、今高校生として磨いて欲しい資質は何か、日本人の世界に誇るべきものは何かなどについて講演していただきました。

その後、グローバル人材とその資質についてグループで討論を行い、視野を広げることができました。本講演は海外研修の事前研修を兼ねており、討論は全て英語で行われましたが、間違いを恐れることなく進んで英語を話そうとする生徒の姿が多く見られました。自分の英語力が低いことがコミュニケーションに支障をきたすということを痛感した生徒が多く、今後の英語学習のモチベーションを高めることにつながりました。

□生徒の感想より

・須原さんはとてもエネルギーで、話を

聞いていて本当に多くの刺激を受けた。ディスカッションでもみんなが積極的に自分の意見を英語で伝えようとして、自分のやる気にもつながった。“失敗を恐れずに挑戦する事。”これが、自分の今後の成長につながると思った。

・後半のディスカッションでは、発表の内容の深さから、いろいろなことを考えさせられた。「グローバルとは？」という問いの答えとして共通していたのは、地球を1つの単位として考え、すべての国に関する物事として考えていたことだった。

◆■2月7日(火)

■国際交流体験プログラム(生物・国際系)

〔講師〕

青木 崇史 氏

(ボルネオ保全トラスト・ジャパン事務局長)

講演「生物多様性の保全と私たちの生活について」

〔日程〕15:30～17:30

〔参加者〕一・二年次生希望者27名

(含 マレーシアボルネオ研修事前学習)

□講師 青木氏について

1974年生まれ。中央大学商学部およびサザンイリノイ州立大学マスコミュニケーション学部卒。専門商社、IT企業でのSEを経て、国際会議運営企業で翻訳関連業務に従事。並行してグロービス経営大学院に通学し、MBA取得見込みと同時に退社(2014年3月取得)、現職に至る。

□講演の概要

アブラヤシプランテーション開発についての関係者会議(ロールプレイ)

ねらい:ロールプレイによって様々な背景を持った人間になることで、環境問題の解決における複雑さを学ぶ。開発と環境保全のそれぞれのメリットとデメリットについて考え、他人の意見を尊重しながら最も良い解決方法

を導き出さなければならない。

所要時間

1. 説明 5分
2. 関係者会議&発表 1回目 15分
3. 関係者会議&発表 2回目
(役割を変えて) 15分
4. 意見交換 10分
5. 進行役による講評 5分

配付資料：ロールプレイカード（6人の背景を説明した資料）

賛成派

1. カリヤナ（サバ州政府役人）
2. デニス（プランテーション企業の地域開発担当者）
3. アイシャ（A村 村長）
4. 鈴木（日本の菓子メーカー社員）

反対派

1. ロスリ（B村 村長）
2. イザベラ（環境 NGO リーダー）

進め方

- ・問題に対して賛成か反対か、妥協点があるとしたらどこかをスタート前に考える。
- ・それぞれの役になりきって、開発計画を話し合う。
- ・進行は州政府役人が担当する。A. 地区を開発するか、B. 開発を中止するか、をグループ内で20分ほど議論する。
- ・全てのグループについて、どのようなことを話したか、結論はどうか、を代表者が発表する。
- ・チーム内で全員の役を交代し、ロールプレイの2回目を行う。その際、なるべく1回目と賛成と反対が入れ替わるようにする。立場や役割が変われば考え方や発言内容も変わることを体感する。
- ・全てのグループについて、どのようなことを話したか、結論はどうか、を代表者が発表する。
- ・最後に、参加者は役を離れて開発計画を話し合う。開発計画に賛成か反対か、その理

由についてグループ内で意見を交換する。

その上で、持続可能な開発がどうすれば実現するかを考え、発表する。

進める上で配慮する事柄

- ・賛成と反対の間にグレーゾーンがあることを参加者に理解してもらうように努める。同じ「村民」という括りでも賛成派と反対派がおり、賛成派にも、自然を大事にしたいと思っている人がいるかもしれない。
- ・開発賛成派（4人）と反対派（2人）のバランスが悪いが、これは現実を反映している。環境を守るために行動するということは簡単だが、現実の世界においては、権力者は一般的に開発賛成派である。
- ・ボルネオに限らず、日本でも同じような事例（環境保全より経済開発が優先される）がないかについて、参加者に考えてもらうのも良い。

□生徒の感想より

- ・現地の人は様々な葛藤があった中で現状に至っていて、プランテーションにも環境保全にも積極的でした。私たちが考えるよりもこの問題に深い考えを持っていたのです。一番の悪者は、関心もないまま消費している先進国の人々だということに気づきました。
- ・ロールプレイングでは、以前は絶対に反対という考えだけで、あまり深く話し合えなかったし、それ以上考えることができなかつたけれど、今回は賛成と反対の両方の意見について納得でき、反論も考えることができた。海外に行ってから考え方も大きく変わり、多角的に物事を見られるようになったと思う。研修に行って終わりではなく、今後も考える機会をつくっていきたい。
- ・プランテーションは多くの悪影響もあるが、現地では様々な考えが入り乱れていることが分かった。現地の人々の立場に近づいてみると、プランテーションを必要としている人もいることを知り、どこかで切って捨て

- るわけにはいかない複雑な関係性を感じた。
- ・今の私にできることは、微力でも物を買うときに意味のある消費行動をすること、私の行動が社会のどんな人とつながっているか考えること。今の世の中を変えるには何かを手放す必要がある。しかし、その勇気を先進国の人は持っていない。それどころか無関心である人の多さに驚いた。
 - ・ボルネオ島にパーム油という大きな問題があることを初めて知った。私は絶対に環境を保護すべきだと考えているから、ボルネオのパーム油の現状を知って心が痛んだ。話し合いを通じていろいろなことを考えたが、現地に行けば本物を見ることができ、また違うことを思うのだろう。まだ私たちにはこのように話し合うことしかできなくて、なかなか改善のために活動することはできないかもしれないけれど、まずはいろいろな国の環境問題を知ることから始めるのも良いことだと思った。
 - ・「直し方の分からないものを壊すのはもう止めてくれ」という言葉はとても心に残った。パーム油は効率の良い油だから、政治的な力が働くだろうし、現在の需要が高い状況から、熱帯雨林の破壊を止めるのは、当分は厳しいのではないかと思った。
 - ・パーム油に関する問題に日本がそこまで深く関係しているとは思っていなかった。しかし、パーム油は意外と身近なところで用いられていて、自然環境だけでなく経済的な問題にもつながっていくのだということを実感した。

◆■2月12日(水)～14日(金)

■各種大会体験プログラム

第5回高校生国際シンポジウム

海外研究部

□はじめに

応募総数 157 本のうち、書類選考を通過した 103 本の研究について、宝山ホール（鹿児

島県文化センター）で発表が行われた。

海外研究部は、この大会に昨年初めて1チームが参加し、分野別の優秀賞を受賞することができた。2回目となった今年は、応募した3チームすべてが書類選考を通過したため、8名全員が鹿児島島に向かった。

□概要

発表は分野ごとに分かれて行われた。

1 ジェンダー・教育分野

発表テーマ:

「高校生の政治的関心向上のための原因追及と提案」

選挙権年齢の引き下げは、当初は話題性が功を奏し、10代の投票率が50%に迫るといった高い数値を記録した。しかし、その後は徐々に低下し、現在では30%程度にとどまっている。そこで、若者の政治的関心を向上させるために低い投票率の原因を探り、それを踏まえた上で、投票率向上のための提案を行った。

若者とその保護者に対して大規模なアンケート調査が行われたが、その対象は本校生徒のみならず、全国の高校生や大学生、さらには外国に住む若者にまで広がった。インターネットを活用して研究を進める姿は、まさにSNS世代を象徴するものであった。

彼らは、普段「政治と高校生の架け橋を創る会」の活動に取り組んでいるが、実際の活動を紹介しながらの提案には説得力があり、審査員の関心も高かった。その結果、分野別の優良賞（第3位相当）を受賞した。

2 地域課題分野

発表テーマ:

「JR 岐阜駅における短時間利用者により生じる放置自転車の解決策についての考察」

前年の11月に岐阜県教育委員会主催の「高校生国語力セミナー」において、地域の活性化に関して発表したものをベースにしている。今回は、テーマをJR岐阜駅周辺の放置自転車に焦点化し、その実態を詳しく調査するとともに、問題解決のための提案がなされた。

彼らは、自転車放置の実態を把握するために、1日3回、20日間近くに渡って、JR岐阜駅南口周辺の放置自転車の台数を調査し、同時に100人以上の自転車利用者に対して聞き取り調査も行った。また、それだけでなく、岐阜市の土木管理課自転車係から放置自転車対策の現状について話を聞くなど、多面的なアプローチを試みた。

発表は内容がユニークなだけでなく、プレゼンテーションにも発表者の個性に溢れていたために、深刻な問題を取り上げながらも、発表は終始明るく和やかな雰囲気にも包まれた。その結果、分野別の優良賞を受賞した。

3 国際・観光・ビジネス分野

発表テーマ:

「外国人生徒への学習支援」

近年、義務教育年齢の外国人の子どもの不就学や不登校は増加傾向にあり、社会問題としての徐々に深刻さを増してきている。そのような実態に対して高校生として何ができるかについて提案を行った。

不就学の原因は主として経済的な不安によるが、不登校についてはそのことに加えて言語に対する不安が大きいことがわかり、言語(学習)の面から支援できるのではないかと考えた。そこで、早くから外国人生徒の学習補助に取り組んできた岐阜県可児市に出かけてその取り組みを調査した。可児市立蘇南中学校、ばら教室 KANI、可児市国際交流協会を訪れて話を聞き、蘇南中学校では外国人中学生に対する教科学習補助のボランティアにも参加した。

インターネットを駆使し、その場にいながら調査するだけで満足せず、実際に出かけて行って体験するという体当たりの調査研究は、参加者や審査員に強く訴えたようである。その結果、分野別の優秀賞(第2位相当)を受賞した。

□おわりに

3 チームすべてが分野別の表彰を受けるこ

とができたのは快挙であった。残念ながら最優秀賞を取ってグランプリに駒を進めることは叶わなかったが、これは次年度以降の課題としたい。今大会への取り組みは、模擬国連や英語ディベートで培った力を、研究発表の分野でも発揮するという意義ある活動と認識している。今後も取り組みを継続し、研究成果を積み重ねていきたい。

◆■2月14日(金)

■国際交流体験プログラム(国際環境系)

〔講師〕

松林 尚志 氏(東京農業大学教授)

講演「生物多様性の保全と私たちの生活について」

〔日程〕15:30~17:30

〔参加者〕一・二年次生希望者27名

(含 マレーシアボルネオ研修事前学習)

□講演の概要

ボルネオの塩場の研究で注目されておられる松林先生から、現在の研究に至るまでのいきさつをご紹介いただいた。

細胞レベルの研究から生物に直接関わる研究へ舵を切り、クジラや哺乳動物の領域へ飛び込まれたことや、初めてのボルネオで体当たりで研究されたこと、次第に認められる存在になっていったこと、ボルネオの大学生とともに研究を進めたことなど。また、ボルネオの多様な生物について、マメジカ、オランウータンの様子をお話しいただいた。野生生物を調査する方法として、目視、カメラでの撮影、環境DNA、4Kカメラを紹介していただいた。特に、最新の研究成果である4Kカメラでの映像はとても自然で、これまで撮影されることがないとは思えない美しさだった。

□生徒の感想より

・松林先生の、自分で研究テーマを見つけ、お金を貯めて、独力でボルネオに行くという行動力にとっても驚きました。自分が気になったことをひたすら研究するのがとても

楽しそうで、無限に調べられるのだろうと思いました。私もボルネオ研修で何か興味を持てるものを見つけようと思いました。

- ・自分のやりたいことは何か、問い続けて自分で行動する先生の姿は私の憧れだ。大学や校外活動が楽しみになってきた。失敗を恐れない、リスクを負うのはとても勇気の要ることだと思う。
- ・「まずは行動」「ヒントは現場から」「やってみると意外にできる」という言葉を心に刻んで、何事にも挑戦してみたいと思いました。
- ・高校でもやっている環境 DNA での調査がオランウータンでも活用されていてすごいと思った。オランウータンには、メス、優位オス、劣性オスの3種類がいて、さらに劣性オスが優位オスに変身することを初めて知った。塩場のことはもっと有名になり、教科書に載っても良いのではないかと思った。
- ・塩場に集まる動物を研究し、学術論文によってその場所にいかに希少な価値があるかを示すことで、その場所を保護できることを知った。
- ・岐高に来るまで「ボルネオ」を聞いたことがなく、ボルネオが抱える問題を知る由もなかったが、日本に住む者として他人事ではないということを実感した。
- ・私は日本にいるから保全は大切だと言えるが、パーム油の農家の立場になったらとても難しいと思った。しかし、これからの世界を背負っていく私たちの地球が破壊されていることは確かなので、環境保全と生活を両立することが大切だと思った。

◆■3月13日(金)～23日(月)

■国際交流体験プログラム

令和元年度海外研修中止の経緯

1 海外交流支援事業申請書の提出

平成31年度4月5日付で、平成31年度海

外交流支援事業申請書を岐阜県教育委員会へ提出し、令和元年度3月13日～23日までの米国東海岸への研修準備を始めた。

2 保護者への案内

令和元年10月11日(木)学校から「海外研修に関する説明会の案内」として、米国東海岸研修およびマレーシアボルネオ研修の実施を伝える。

令和元年

11月10日(日) 旅行取扱業者による「海外研修」説明会。米国東海岸研修の後に、マレーシアボルネオ研修の説明。参加者は一年次生107名・二年次生10名であった。

11月20日(水) 「海外研修」申し込み締め切り

11月26日(火) 米国東海岸研修の希望者が一年次生61名・二年次生5名であった。一年次生希望者による抽選を実施し、一年次生35名・二年次生5名の参加者を決定した。

マレーシアボルネオ研修の希望者が、一・二年次生合わせて18名であったため、再募集の案内をした。最終的に一年次生16名・二年次生3名の、合計19名の参加者を確定した。

3 「海外研修」に関わる事前研修

□米国東海岸研修

令和元年

12月6日(金) 第1回オリエンテーション

(旅行業者・保護者も出席)

12月18日(水) 第2回オリエンテーション(校内)

令和2年

1月17日(金) 第3回刈エンターション
(旅行者)

1月24日(金) 第4回刈エンターション
(国際交流体験プログラム/須原氏)

2月5日(水) 第5回刈エンターション
(旅行者)

2月21日(金) 第6回刈エンターション
海外研修最終説明会
(旅行者・保護者も出席)

□マレーシアボルネオ研修

令和元年

12月10日(火) 第1回刈エンターション
(旅行者・保護者も出席)

令和2年

1月17日(金) 第2回刈エンターション
(マレーシア協会/新井氏)

1月24日(金) 第3回刈エンターション
(国際交流体験プログラム/須原氏)

2月7日(金) 第4回刈エンターション
(ボルネオ保全トラスト/青木氏)

2月14日(金) 第5回刈エンターション
(職業・学問体験プログラム/
東京農業大学松林教授)

2月21日(金) 第6回刈エンターション
海外研修最終説明会
(旅行者・保護者も出席)

4 中止に関わる経緯

令和2年

2月13日(木) 「海外研修に関わる不測の
事態について」(保護者宛連絡
文書配布)

2月26日(木) 県教育委員会から「海外研修
旅行の当面の自粛について」
【要請】

2月27日(木) 令和元年度「海外研修」実
施の見直しについて(連絡
文書配布)

2月28日(金) 「新型コロナウイルス感染
症対策のための一斉臨時休
業」【教育長通知】

2月28日(金) 「臨時休校について」(連
絡文書配布)

2月28日(金) 「令和元年度「海外研修」
の中止について」(連絡文書
配布)

3月2日(月) 「年度末考査の中止につ
いて(岐阜高校)」(メール連
絡)

3月6日(金) 「海外研修」の中止に関わ
る保護者説明会(旅行者
から)

中止説明会の内容は、次の4点である。

1. 中止に関わる経緯の説明(学校から)
2. キャンセル料について(旅行者から)
3. 旅行代金の返却方法について(旅行者
から)
4. 質疑応答

希望者のうち新二年次生になる生徒は、来
年度の海外研修に優先的に参加できるかとい
う質問があった。これまでどおり二年次生は
優先的に参加できるという方針で計画するこ
とを伝えた。

また、説明会では今回参加できなかった生
徒たちに対する学校側からのフォローについ
ても検討する旨を伝えた。

◆■3月20日(金)～23日(月)

■各種大会体験プログラム

第9回科学の甲子園全国大会中止の経緯

埼玉県さいたま市で3月20日～23日に開
催される予定であった第9回科学の甲子園全
国大会は、新型コロナウイルス感染症の拡が
りを受け、中止となりました。

大会に参加する予定であった生徒は夏休み
前から何度も学習会を重ねて、知識や技術、
チームワークを鍛えてきました。

6月26日(水) 数学校内学習会

7月5日(金) 情報校内学習会

8月3日(土) 合同学習会

科学の甲子園全国大会に参加した経験のあ

る隣接県の高校と、県内の高校合わせて12校で合同学習会を開催しました。午前中は数学と情報の筆記競技の学習会を、午後は物理、化学、生物に分かれて実験競技の学習会を行いました。物理実験は「台車上の斜面を転がる物体の運動」について、化学実験は「電気分解」について、生物実験は「カイコガのはばたき行動」についての問題でした。

10月9日(水) 物理実験学習会

10月30日(水) 物理実験学習会

11月5日(火) 化学実験学習会

県予選参加希望生徒を募り、参加予定生徒を中心に、主に実験競技の学習会を繰り返しました。

11月11日(月) 岐阜県予選

本校からは、事前学習会に参加したメンバーを中心に、6人編成で2チームを選抜し、予選に臨みました。今回の大会では、全国大会と同様、事前公開の実技競技「ピンポイント着地を狙え！」があり、大会前の10日間は、目標に素早く正確に着地するターゲットマーカーと、着地したターゲットマーカーの真上にゆっくり正確に落下する機体の開発と製作に取り組みました。当日の筆記競技及び実験競技、実技競技の総合得点で、本校Aチームが優勝、Bチームが4位という成績で、第1回大会より9回連続で岐阜県代表として選ばれました。

参加を希望した生徒は、個人的に、物理チャレンジ、生物オリンピック、化学グランプリ、数学オリンピックなど全国規模の各種科学オリンピックに挑戦しました。中には全国大会に出場する生徒もあり、それぞれが実力を高めました。

12月19日(木) 自動運転プログラミング実習(最先端科学体験プログラムに参加)

1月29日(水) 実技総合競技学習会(2週間かけてコンデンスプレーンを開発)

全国大会に向け県大会のAチームを中心に8人の出場メンバーを選抜し、全国大会での実技総合競技に向けた学習会を実施し、生徒は各自で筆記競技の学習も重ねました。

2月上旬からは、公表された実技競技の③公開競技「積んで埼玉」(自作の自動で止まる台車によるブロック運搬競技)に向け、機体の開発を進めました。

2月20日(木) 生物実験学習会

2月26日(水) 生物・物理実験学習会

今回の全国大会では、実験競技が生物分野と物理分野であると発表されたことを受け、それぞれの実験競技に出場する生徒を対象に学習会を実施しました。

このように、充実した準備を重ねる中、新型コロナウイルス感染症が拡がりを見せたことで、様々な行事が中止や延期を余儀なくされ、科学の甲子園全国大会も中止となりました。今年のメンバーは実力者揃いで、第6回大会以来の2回目の総合優勝が期待できるチームだっただけに、中止の決定は大変残念でした。大会に向け取り組んだ貴重な経験は今後の活動で生かされると思います。後輩の皆さんは、第10回大会での総合優勝を目指し、今後の学習会に参加してみてください。

◆■3月21日(土)~23日(月)

■各種大会体験プログラム

令和元年パーラメンタリーディベート杯
参加辞退の経緯

1 大会概要

開催予定日：令和2年3月21日~23日

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

2 事前学習会

12月のPDA即興型ディベート大会参加後、二年次生の生徒は本大会を自分たちの最後の大会と位置づけ、毎週木曜日に練習を続けていた。ディベートのトピックは学校生活に関わるものから社会問題まで多岐にわたり、

様々な視点から論理を構成する練習を行った。

3 中止に関わる経緯

2月28日(金) 「臨時休校について」(連絡文書配布)

2月28日(金) 大会日程の一部短縮

3月2日(月) 参加辞退

休校期間中の部活動停止に準じ、参加を取りやめた。

◆■3月27日(金)～28日(土)

■各種大会体験プログラム

第4回東海地区高等学校模擬国連大会延期の経緯

本校と海陽中等教育学校、名古屋高等学校の3校で主催する東海地区模擬国連大会は、年2回の開催を目指している。令和元年度は、9月に海陽中等教育学校で第3回大会を行った。第4回大会は、会場を名古屋高等学校に移して準備が進められた。本校からは運営3名と大使10名が参加を表明し、全体では38組80名近くの生徒の参加が予定されていた。

テーマは「違法、無報告、無規制 IUU 漁業の撲滅(Combating Illegal, Unreported and Unregulated IUU Fishing)」。海洋資源の保全は一国が単独で扱えるものではなく、国際社会が協力して取り組まねばならないという点で、模擬国連にふさわしいテーマと言える。

その後、参加チームの担当国も決定し、本格的にリサーチを始めた矢先、開催を見送る決定がなされた。大会を1ヶ月後に控えた2月26日のことであった。この時期は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、休校措置の検討がなされていた。模擬国連の議場行動において、各国が自由に交渉を進めるアンモデ(Unmoderated Caucus)は欠かせないが、各国大使が密集して議論する形態は感染の危険性が極めて高いため、見送りの判断はやむを得なかった。

ウイルスの活動がいつ終息するか見通しが立たない中での延期は、実質中止と変わりな

い。本大会は、初心者にとって参加のハードルが低く、ここから模擬国連を始めようという生徒も多いだけに、その機会が奪われたのは、活動を継続させる上で大きな痛手となった。

やがてオンラインを使った会議が各地で開かれるようになり、この大会も2020年8月にオンラインによる大会開催を決定した。実際の会議がどのようなものになるのか、不安は尽きないが、参加者の熱意によって大会を成功に導くよう努力していきたい。

～令和2年度～

※新型コロナウイルスの世界的な感染拡大のため、上記の通り、グローバルリーダー養成事業の多くも計画の変更・中止を余儀なくされました。令和2年度については、4月～7月に実施されたプログラムはありませんでした。